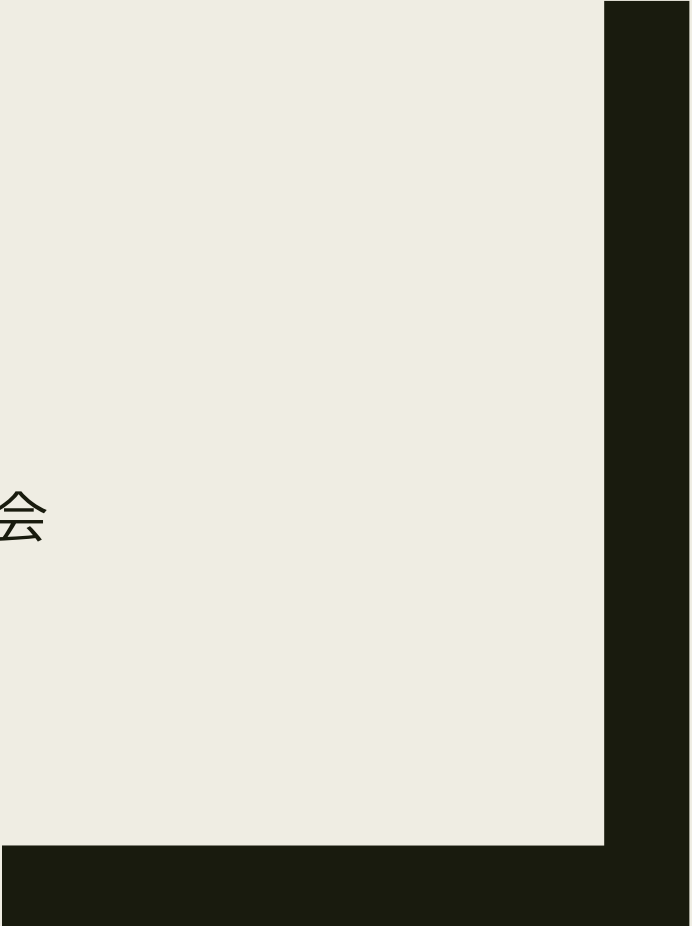


第51回 学生大会  
～ 2020年度 第1回～

日本オペレーションズ・リサーチ学会  
常設研究部会「意思決定法」  
ZOOM開催 2020.2.18 (木)



# 次第：16:00～18:00

- あいさつ 2020年度幹事 飯田
- 学生発表：1人20分以内、質疑応答10分
  1. 亀野 空 (大阪商業科大学 総合経営学部経営学科 2年)
  2. 田中桜佳 (公立諏訪東京理科大学 経営情報学部経営情報学科 4年)
  3. 小杉 萌 (公立諏訪東京理科大学 経営情報学部経営情報学科 4年)
  4. 大岩優華 (公立諏訪東京理科大学 経営情報学部経営情報学科 4年)
- 講評 出席者(学生以外)全員一言ずつ
- まとめ&次回の予告
- 輪読のお誘い

# ■ 学生発表

## 発表方法

- 発表者は、ZOOMの共有画面で、自分で操作しながら発表してください。
- 発表時間：20分以内  
15分経過で1鈴、19分経過で2鈴、20分経過で3鈴  
2鈴を聞いたら、まとめに入ってください。
- 質疑応答：10分  
はじめは学生以外からの質問とします。  
その後、時間があれば、学生以外から質問を受け付けます。

# 1. 飲食店における長居を防止する システムの考案と経営者の 意思決定に関する研究

- 発表者：亀野 空（大阪商業大学総合経営学部経営学科2年）
- 内 容：本研究は、飲食店などで顧客が長居することで商機を逃してしまう経営問題に着目して考案した"長居を防止するシステム"の普及に関する研究報告です。新しいシステム導入に向けての市場調査、ヒアリング結果に加えて、経営者の意思決定基準、消費者の傾向について調査からまとめた内容を報告をいたします。

## 2. インターネット時代の アンカリング効果とプロスペクト理論

- 発表者：田中桜佳（公立諏訪東京理科大学 経営情報学部経営情報学科 4年）
- 内容：意思決定論におけるヒューリスティックスに、アンカリング効果とプロスペクト理論がある。これらの理論は、心理学者であるカーネマンとトヴェルスキーによる人間の直観に関する理論である。本研究はマーケティングの視点から出発し、インターネットを活用する大学生にどの程度効果があるかをアンケート調査により分析したものである。統計的検定までは行えなかったものの、ググることでアンカリング効果は回避される一方で、ググることをしなければアンカリング効果は確かに認められたことを紹介する。

# 3. 階層分析法による弾力性のある ルーブリック評価

～ある運送業社におけるMVPの選定を題材として～

- 発表者：小杉 萌（公立諏訪東京理科大学 経営情報学部経営情報学科4年）
- 内容：ある運送業社ではドライバーのモチベーションを上げるために毎年MVPを決定しています。しかしながら、社長の経験や直観でMVPを決定しているところがあり、うまくドライバーのモチベーションを上げることに結び付けられていないと考えられました。そこで、どのような行動をすれば高く評価されるかをドライバーのコンピテンシーをルーブリック評価表として見える化することを考えました。さらに、同じルーブリック評価表によるルーブリック評価では、毎年同じドライバーが高い評価を得ることが予想されるため、年度ごとに、階層分析法により重要度を变化させることを提案しました。本研究は、実際の運送業社の方に協力を得て行いました。

# 4. 階層分析法による 先送りすべき意思決定の研究

- 発表者：大岩優華（公立諏訪東京理科大学 経営情報学部経営情報学科4年）
- 内 容：変化が激しい現代社会では、スピード重視の意思決定が求められる一方で、意思決定を先送りして意思決定のタイミングを待つことも重要とされています。階層分析法を適用する意思決定の場面で、どのような場合に先送りすべきか研究した成果を報告します。本研究は、春季研究報告会で報告予定です（3月3日）。

# ■まとめ&次回の予告

次回より、2021年度研究会の活動になります。

=====

【2020年度 第2回 研究部会】

◆日時：3月16日（火）16:00-18:00

◆会場：Zoomによるオンライン開催

※詳細は第1回研究会開催後に、改めてお知らせいたします。

-----

◆発表予定者：

(1) 法雲 俊栄 氏（大阪商業大学）

「生命保険業における情報化と組織の意思決定（日本生命を中心として）」

(2) 大山口菜都美 氏（秀明大学）

「Multi-branch treeを用いた予算配分法とその誤差評価について」

(3) 飯田 洋市 （公立諏訪東京理科大学）

「階層分析法による事務事業の有効性評価の枠組みと実践」

◆今後についての検討（2か月に1度の開催を希望します：）

事前にメールで審議したいと思いますが、この場でも、研究報告の順番や運営方法に関して意見交換したいと思います。

=====



# 年間活動計画（理事会に提出済）

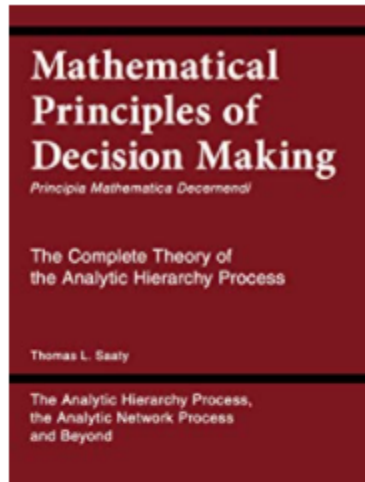
- 年間5回の研究会、1回の学生発表会、1回の学会発表会のセッション
- 研究会は、当面は原則としてZoomによるオンライン開催とする。
- 2022年3月の研究発表会で「意思決定法」部会としてセッションを組む（3～4件の発表）。

- 3月、6月、8月、9月、12月：学術研究報告と文献紹介を1件ずつ行う。
- 1月：学生発表会（後日、優秀な発表に対して表彰を行う）

研究部会のメンバーの学生に限定することなく、意思決定に関連する研究を行っている学生の報告機会とする。

（詳細は次回決定したいと思います。状況により変更可とします。）

# 輪講のお誘い



Mathematical Principles of Decision Making (Principia Mathematica Decernendi) (English Edition)

Thomas L. Saaty

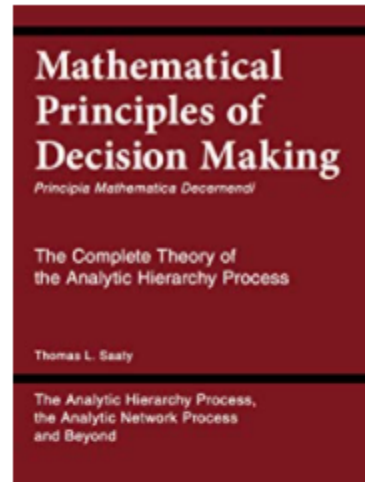
★★★★★ ☆ 1

Kindle版 (電子書籍)

¥994

10ポイント(1%)

すぐに購読可能



Principia Mathematica Decernendi / Mathematical Principles of Decision Making  
Thomas Saaty

★★★★★ ☆ 1

ペーパーバック

¥4,787 税抜

¥5,267 税込

配送料 ¥409

通常6~10日以内に発送します。

こちらからもご購入いただけます

¥4,214 (10点の中古品と新品)

- タイトル  
『Principia Mathematica Decernendi』
- 著者 Thomas. L. Saaty
- 出版年 2009年7月29日
  
- 参加者を募集します。
- 輪読の方法は次回、決めたいと思います。
- 研究部会の一部にすることも検討。